

## 令和5年度 第2回学校運営協議会 報告

- 1 会議 令和5年11月27日(月) 14:00~15:00
- 2 出席者 比嘉委員、藤村委員、安達委員、中山委員、奥田委員
- 3 次第

- 1 会長挨拶

みなさんのご協力のもと円滑な議事進行につとめたい。よろしくお願いしたい。

- 2 校長挨拶

2年修学旅行は、生徒自身が自分事として捉え、素晴らしいものとなった。探究活動では、山本副会長の力をお借りし、地域の課題について提案したり地域の方から意見をもらったりする機会をつくっていただいた。現在、食堂や制服の改定について検討をすすめている。これから今年度のまとめの時期に入っていく。今後とも北千里の教育活動のためご助言いただきたい。

- 3 協議

- (1) 本年度学校経営計画の進捗について

- (2) 学校の取組について

○各分掌・学年より

- ・教務

観点別学習状況の評価は、主体的に学習に向かう態度の評価を重点に研究授業等を展開して、学校全体で取り組んでいる。

デジタル採点システム「百問繚乱」の導入(府教育庁)。定期考査での使用。

集計などが早く業務改善には役立っている。再来年度から入学者選抜での使用。

- ・生徒

生徒主体の運営。生徒に任せるところ、教員が取りまとめるところのバランスを取りながら、生徒が自らの考えに基づいて行動できるような力を育む。

自転車マナーについては、日ごろから注意喚起を続けているが、苦情も受ける。

制服の改定は、令和7年度入学生からの導入をめざして検討中。男子詰襟制服をやめる(LGBTQの生徒への配慮等を趣旨として)予定。

- ・進路指導

「第一志望をあきらめない」最後まで諦めない。自分のやりたいことをつらぬくことをサポート。進路講演会実施。今年度、共通テストの出願が90%を超える。

- ・保健

検診では、抽出での耳鼻咽喉科健診が始まる。

- ・人権教育推進委員会

性に関するテーマ。HRや職員人権研修で当事者の方の講演を行う。スマホ使用についての生徒の感覚(特にSNSに対する)の軽さ。粘り強く指導していく。

- ・各学年

修学旅行は、修学旅行委員を中心に生徒が行動を主導していてよいものだった。

○国際交流事業について

オーストラリア語学研修の実施

9日間のプログラムを紹介。教員は付き添わない。事前事後学習は学校で。

(研修の様子画像を投影)生徒の変容(積極的な姿)も見られた。

○総合的な探究の時間について

SDGsをテーマに地域等の課題解決策を提案。校外学習を活用したインタビューや、地域研究交流会（副会長の山本さんから紹介）の紹介、まちづくりへの提言の機会。学校を出た活動や地域と連携した活動に広がりを見せている。

○その他

学校教育自己診断について（質問項目の確認）

(3) 質疑・意見交換および提言

・国際交流について

学校行事として実施しているか？

学校の国際交流の取り組みではあるが、学校が選んだ語学研修プログラムを紹介する形をとっている。教員は付き添わないが、オーストラリアに拠点があり、日本からの添乗2名と、現地のスタッフ1名の3名体制であたってくれるものを選んだ。教員の旅費の課題や、休業期間に長期に渡っての付き添い教員を確保する難しさがあり、この形は非常によかった。

・Chromebook (ICT) の活用

先生方の負担軽減になっているところは？ICT活用のメリットデメリットは？教科による特性もあると思うが、数学では練習問題の解答を少し丁寧に作成して配信することで、授業での解説の時間が削減でき、復習したい生徒や欠席の生徒の手当てにも役立っている。授業の展開でも、生徒の意見集約（ジャムボード）や発表のスライドなど先生と生徒ともに活動の広がりがある。また、アンケート等は、ICT活用により集計などが早くなり負担が軽減されている。

・授業見学したが、生徒が自分で課題を見つけて（保健の授業での発表）調べて発表しているものがあった。大人が思うよりもバラエティーに富んだ着眼点が出て来ていて、高校生らしい発表だった。素晴らしい取り組みと感じた。生徒への働きかけも教員の働き方改革の取り組みも、主語は「生徒が」「先生が」である。生徒が、先生がどうするのか、そこを大切に組み込まれてきた成果が少しずつ出て来ていると感じ、委員の一員としてうれしく思う。

・デジタル採点システムについて

どのようなものか？

生徒の解答用紙をスキャンしてデータ化。例えば大問1の(1)なら、その部分だけが画面に並び、○×を付けていく。記号問題の自動採点機能もあるが、完全ではないので、最終は人がチェックする必要はある。知識問題や思考判断表現の問題などの集計は、設定しておけば自動でしてくれる。生徒が書いた解答用紙と採点結果の入った解答用紙をセットで返却する。PDFでの返却も可。

・薬物乱用防止教育について

高校ではどのさされているか？大学でも（日大の件などを受けて）必要論がある。薬剤師の先生をお招きして薬物乱用防止教室を行っている。

・AIについて

大学でもAIとの付き合い方が議論になっているが、高校はどうか？

学校全体として生徒への使用禁止などはしていない。教員の業務上での使用については、承認手続をとった上で行うように通知は来ている。

(4) その他

今回は、2月中下旬ころ予定している。日程調整の連絡をさせていただく。